

EAJ シンポジウム「日本メーカー製品の品質低下による事故や製品性能データ捏造問題」 — 第 13 回安全工学フォーラム —

主催 公益社団法人 日本工学アカデミー

近年、日本メーカー製品の品質低下による事故や製品性能データ捏造問題が明らかになっている。そこで、首題をテーマに非会員の中嶋洋介氏と南波裕樹氏に問題提起をお願いし、EAJ 会員・賛助会員や一般から幅広くご参加をいただき、様々な視点から議論を行なう。パネルディスカッションを通じて、現状の理解と、製造者・学識経験者が今後とるべきアクションなどについて整理する。

テーマ : 日本メーカー製品の品質低下による事故や製品性能データ捏造問題

日時 : 2018 年 3 月 16 日(金) 13 時 30 分～16 時 30 分 (懇親会 16 時 30 分～17 時 30 分 於同会場)

場所 : 御茶ノ水トライエッジカンファレンス

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-2-5 御茶ノ水 NK ビル(トライエッジ御茶ノ水)11 階 tel.03-5289-0177

参加費 : 無 料(定員 50 名 先着順)、懇親会参加費:2,000 円

参加申込方法:

①氏名、②ご所属、③会員種別[EAJ 会員/賛助会員/非会員]、④連絡先を、電子メール

(academy@ej.or.jp)、もしくはファックス(03-5442-0485)でお知らせください。申込締切は 3 月 5 日です。

なお、参加証は発行しませんので、直接会場にお越し願います(定員を超えた場合には、ご連絡いたします)。

プログラム

ご挨拶

(13:30-13:45)

安全知と安全学委員会 委員長 向殿政男

講演 1 マスコミが伝えるデータ改ざんともものづくりの危機～垣間見える「日本のものづくり」～ (13:45-14:30)

品質と安全文化フォーラム代表理事 中嶋洋介氏

2017 年 10 月 8 日、K 社のデータ改ざんに関し、『出荷前の自主検査で、顧客企業との契約上の仕様が満たされていないことがわかったあと、添付する「検査証明書」のデータを改ざんしていた。日本工業規格(JIS)が定める水準は満たしていたという』ニュースが流れたが、この一文に製品の契約と法令と規格などに関する日本人と日本の姿が垣間見える。その後、データ改ざんと出荷検査の不正を伝えるマスコミ報道が続いたが、モラルの低下、トクサイ、甘え、トップの無関心などを「ものづくりの危機」と伝えるだけで、「日本のものづくりの現状」に踏み込んだ報道はない。そこで、この機会をとらえて、QC 活動と規格(JIS、ISO)、製品安全に係る法令と規格などの日本の現状について、ご一緒に考えたいと思います。

講演 2 なぜ製品不祥事が繰り返されるのか～企業の視点から安全文化確立への課題を考える～ (14:30-15:15)

大成建設株式会社 管理本部 法務部長 南波裕樹氏

製品に係る品質低下による事故や性能データ捏造といった不祥事が一向に止まない。このような事象に対して、弁護士などの第三者による調査と原因分析、そして再発防止提案という流れが定番化しており、大体はトップマネジメント、職業倫理に寄せられてしまう。企業の一員として「明日は我が身」の危機感を抱きつつ、果たしてそれだけなのだろうか、企業に真の安全文化を確立することこそ必達の解決策ではないか、その確立のためにはどうしなければならないか、などと考えさせられるこの頃、企業法務の立場から一つの試論を示し、皆様との議論に供したいと思えます。

パネルディスカッション

(15:30-16:30)

司会: 向殿政男 パネリスト: 中嶋洋介氏、南波裕樹氏